

2018年度 第2四半期 決算説明資料

株式会社 神戸製鋼所

2018年10月30日

1.連結業績概要

2.セグメント別 売上高・経常損益

参考情報

本資料の予想に係る部分は、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

2018年度第2四半期累計期間（上期）

（億円）

	17年度 上期①	18年度 上期②	前年同期比 ②-①	18年度 前回公表（8/1）	
				上期③	増減②-③
売上高	9,070	9,582	+511	10,000	△418
営業損益	514	231	△282	200	+31
経常損益	457	93	△364	100	△7
特別損益	※1 90	※2,3 363	+273	339	+24
親会社株主に帰属 する四半期純損益	393	333	△59	300	+33

※1 投資有価証券売却益 90億円

※2 子会社化関連損益 48億円（神鋼鋼線工業の子会社化）

※3 投資有価証券売却益 314億円（神鋼不動産株式の75%を売却）

(億円)

	17年度 ①	18年度			上→下増減 ③-②	年度増減 ④-①	18年度 前回公表(8/1)	
		上期②	下期見通し ③	年度見通し ④			年度⑤	増減④-⑤
売上高	18,811	9,582	10,718	20,300	+1,136	+1,489	20,300	-
営業損益	889	231	269	500	+38	△389	550	△50
経常損益	711	93	157	250	+64	△461	350	△100
特別損益	20	※1,2 363	-	363	△363	+343	339	+24
親会社株主に帰属 する当期純損益	631	333	17	350	△316	△281	450	△100

※1 子会社化関連損益 48億円
(神鋼鋼線工業の子会社化)

※2 投資有価証券売却益 314億円
(神鋼不動産株式の75%を売却)

<為替レート>

	17年度	18年度 上期	18年度 下期見通し
USDollar (円/\$)	111	110	110
中国元 (円/元)	16.8	16.7	17.0
ユーロ (円/€)	130	130	130

- 当社は、配当につきましては、継続的かつ安定的に実施していくことを基本としつつ、財政状態、業績の動向、先行きの資金需要等を総合的に考慮して決定することとしております。
- これに基づき、当期の中間配当につきましては、1株につき10円とすることを決議いたしました。なお、期末配当につきましては、未定です。

<配当実績>

	15年度			16年度			17年度			18年度(予想)		
	中間	期末		中間	期末		中間	期末		中間	期末	
配当金額 (円/株)	2.0	－	2.0	－	－	－	－	30	30	10	未定	未定

※2016年10月1日を効力発生日として、10株を1株に併合する株式併合を実施。

2018年度第2四半期累計期間（上期）セグメント別

(億円)

		17年度			18年度 上期②	前年同期比 ②-①	18年度 前回公表（8/1）	
		上期①	下期	年度			上期③	増減②-③
鉄鋼	売上高	3,544	3,610	7,155	3,595	+50	3,650	△55
	経常損益	184	△10	173	△17	△201	0	△17
	(内 在庫評価影響)	(25)	(65)	(90)	(5)	(△20)	(0)	+5
溶接	売上高	397	408	805	398	+0	400	△2
	経常損益	25	23	49	9	△16	15	△6
アルミ・銅	売上高	1,743	1,752	3,495	1,813	+70	1,900	△87
	経常損益	79	38	118	16	△62	5	+11
	(内 在庫評価影響)	(20)	(40)	(60)	(20)	(-)	(25)	△5
機械	売上高	705	907	1,613	842	+137	890	△48
	経常損益	△5	28	23	8	+13	15	△7
エンジニアリング	売上高	480	748	1,228	554	+74	580	△26
	経常損益	17	51	69	10	△6	5	+5
建設機械	売上高	1,827	1,818	3,645	2,049	+222	2,150	△101
	経常損益	114	105	219	135	+20	140	△5
電力	売上高	329	391	721	358	+28	350	+8
	経常損益	33	45	79	△36	△69	△50	+14
その他	売上高	292	396	688	222	△69	240	△18
	経常損益	17	36	54	8	△8	5	+3
調整額	売上高	△249	△293	△543	△252	△2	△160	△92
	経常損益	△9	△66	△75	△42	△33	△35	△7
合計	売上高	9,070	9,740	18,811	9,582	+511	10,000	△418
	経常損益	457	253	711	93	△364	100	△7

2018年度第2四半期累計期間（上期）セグメント別

鉄鋼

- 鋼材の販売数量は自動車向けの需要が堅調に推移したものの、一過性の生産設備トラブル、台風などの自然災害の影響などから前年同期を下回った。
- 鋼材の販売価格は、主原料価格上昇の影響などを踏まえて価格改善に努めたことなどから、前年同期を上回った。
- 経常損益については、鋼材の販売数量の減少に加え、物流費の上昇や在庫評価影響(益)が縮小したことなどから、上工程の集約による収益改善策が進捗したものの、減益となった。

	17年度 上期	18年度 上期	前年同期比
売上高	3,544	3,595	+50
経常損益 (内 在庫評価影響)	184 (25)	△17 (5)	△201 (△20)

<生産・販売状況>

粗鋼生産量	394万t	339万t	△55万t
鋼材販売量	304万t	271万t	△33万t
鋼材輸出比率 (金額ベース)	26.4%	25.7%	△0.7%
鋼材販売単価(千円/t)	81.5	85.2	+3.7

<差異分析>

○17年度上期 184億円 → 18年度上期 △17億円

増益要因		減益要因	
総コスト削減	+10	生産・出荷	△70
		原料価格	△30
		在庫評価影響※	△20
		連結子会社・持分法	△15
		その他	△76
合計	+10	合計	△211

※在庫評価影響には総平均計算による影響および低価法影響を含む。

2018年度第2四半期累計期間（上期）セグメント別

溶接

- 主に中国におけるエネルギー向けやタイ・インドネシアにおける自動車向けの販売数量が増加した一方、東アジアの造船向けの販売数量が減少したことなどから、売上高は前年同期並みとなった。
- 経常損益については、溶接材料の明細構成差や固定費の増加などにより減益となった。

(億円)

	17年度 上期	18年度 上期	前年同期比
売上高	397	398	+0
経常損益	25	9	△16

アルミ・銅

- アルミ圧延品について飲料用缶材向け中心に販売数量が減少したものの、地金価格の上昇に伴う販売価格の上昇などにより、増収となった。
- 経常損益については、アルミ圧延品の販売数量の減少に加え、原油価格の上昇に伴うエネルギーコストの上昇や、製品の一部に対する不適切行為による影響により、減益となった。

(億円)

	17年度 上期	18年度 上期	前年同期比
売上高	1,743	1,813	+70
経常損益	79	16	△62
(内 在庫評価影響)	(20)	(20)	(-)

<販売状況>

アルミ圧延品販売量	193千t	178千t	△15千t
銅板条販売量	30千t	29千t	△1千t
銅管販売量	42千t	43千t	+1千t

2018年度第2四半期累計期間（上期）セグメント別

機械

- 樹脂機械や圧縮機などを中心に大口案件の売上を計上したことなどから、増収増益となった。

(億円)

	17年度 上期	18年度 上期	前年同期比
売上高	705	842	+137
経常損益	△5	8	+13

<受注高>

(億円)

	17年度			18年度 上期②	増減 ②-①
	上期①	下期	年度		
国内	301	324	625	319	+18
海外	369	516	885	405	+36
合計	671	840	1,511	725	+54

<受注残高>

(億円)

	17年度		18年度 上期末②	増減 ②-①
	上期末	下期末①		
国内	390	412	454	+42
海外	962	992	834	△ 158
合計	1,353	1,404	1,289	△ 115

2018年度第2四半期累計期間（上期）セグメント別

エンジニアリング

- 既受注案件の進捗差などから増収となるものの、案件構成差などにより減益となった。

(億円)

	17年度 上期	18年度 上期	前年同期比
売上高	480	554	+74
経常損益	17	10	△6

<受注高>

(億円)

	17年度			18年度 上期②	増減 ②-①
	上期①	下期	年度		
国内	512	294	806	519	+7
海外	47	339	386	202	+155
合計	559	633	1,192	722	+163

<受注残高>

(億円)

	17年度		18年度 上期末②	増減 ②-①
	上期末	下期末①		
国内	1,217	979	1,164	+185
海外	692	855	848	△7
合計	1,909	1,834	2,012	+178

※神鋼環境ソリューションの水処理/ごみ処理等に関する長期運転維持管理業務は単年度売上額を受注額として集計

参考) 受注高+長期運転維持管理業務(※)の受託高

(億円)

	17年度			18年度 上期②	増減 ②-①
	上期①	下期	年度		
受注/受託	487	615	1,102	651	+164

参考) 受注残高+長期運転維持管理業務(※)の受託残高

(億円)

	17年度		18年度 上期末②	増減 ②-①
	上期末	下期末①		
受注/受託	2,869	2,769	2,881	+112

※神鋼環境ソリューションの水処理/ごみ処理等に関する長期運転維持管理業務の受託案件

2018年度第2四半期累計期間（上期）セグメント別

建設機械

- クレーン倒壊事故の影響があったものの、油圧ショベルの販売台数が中国を中心に堅調に推移したことなどにより、増収増益となった。

(億円)

	17年度 上期	18年度 上期	前年同期比
売上高	1,827	2,049	+222
経常損益	114	135	+20

電力

- 神戸の新規発電プロジェクトの資金調達に伴う一過性の費用が発生したことなどにより、減益となった。

(億円)

	17年度 上期	18年度 上期	前年同期比
売上高	329	358	+28
経常損益	33	△36	△69

2018年度業績見通し (セグメント別)

(億円)

		17年度 ①	18年度			上→下 増減 ③-②	年度増減 ④-①	18年度 前回公表(8/1)	
			上期②	下期見通し③	年度見通し④			年度⑤	増減④-⑤
鉄鋼	売上高	7,155	3,595	4,005	7,600	+410	+445	7,400	+200
	経常損益 (内 在庫評価影響)	173 (90)	△ 17 (5)	47 (25)	30 (30)	+64 (+20)	△ 143 (△ 60)	30 (5)	- (+25)
溶接	売上高	805	398	422	820	+24	+15	820	-
	経常損益	49	9	21	30	+12	△ 19	40	△ 10
アルミ・銅	売上高	3,495	1,813	1,937	3,750	+124	+255	3,850	△ 100
	経常損益 (内 在庫評価影響)	118 (60)	16 (20)	△ 36 (0)	△ 20 (20)	△ 52 (△ 20)	△ 138 (△ 40)	20 (25)	△ 40 (△ 5)
機械	売上高	1,613	842	968	1,810	+126	+197	1,840	△ 30
	経常損益	23	8	17	25	+9	+2	55	△ 30
エンジニアリング	売上高	1,228	554	956	1,510	+402	+282	1,500	+10
	経常損益	69	10	40	50	+30	△ 19	45	+5
建設機械	売上高	3,645	2,049	2,001	4,050	△ 48	+405	4,100	△ 50
	経常損益	219	135	105	240	△ 30	+21	240	-
電力	売上高	721	358	402	760	+44	+39	710	+50
	経常損益	79	△ 36	16	△ 20	+52	△ 99	△ 20	-
その他	売上高	688	222	208	430	△ 14	△ 258	440	△ 10
	経常損益	54	8	37	45	+29	△ 9	40	+5
調整額	売上高	△ 543	△ 252	△ 178	△ 430	+74	+113	△ 360	△ 70
	経常損益	△ 75	△ 42	△ 88	△ 130	△ 46	△ 55	△ 100	△ 30
合計	売上高	18,811	9,582	10,718	20,300	+1,136	+1,489	20,300	-
	経常損益	711	93	157	250	+64	△ 461	350	△ 100

2018年度業績見通し（セグメント別）

鉄鋼

- 一過性の生産設備トラブルの影響や自然災害影響があるものの、在庫評価影響の改善を見込んだことなどから、経常利益は前回想定を据え置く。

(億円)

	17年度 ①	18年度			上→下増減 ③-②	年度増減 ④-①	18年度 前回公表(8/1)	
		上期②	下期見通し③	年度見通し④			年度⑤	増減④-⑤
売上高	7,155	3,595	4,005	7,600	+410	+445	7,400	+200
経常損益	173	△ 17	47	30	+64	△ 143	30	-
(内 在庫評価影響)	(90)	(5)	(25)	(30)	(+20)	(△ 60)	(5)	(+25)

<生産・販売状況>

	17年度 ①	18年度			上→下増減 ③-②	年度増減 ④-①	18年度 前回公表(8/1)	
		上期②	下期見通し③	年度見通し④			年度⑤	増減④-⑤
粗鋼生産量	746万t	339万t	345万t程度	685万t程度	+5万t程度	△ 60万t程度	690万t程度	△ 5万t程度
鋼材販売量	597万t	271万t	295万t程度	565万t程度	+25万t程度	△ 30万t程度	570万t程度	△ 5万t程度
鋼材輸出比率(金額ベース)	27.2%	25.7%	26%程度	26%程度	同程度	△ 1%程度	25%程度	+1%程度

<差異分析>

○18年度前回見通し 30億円 → 18年度今回見通し 億円 30億円

(億円)

増益要因		減益要因	
原料価格	+15	生産・出荷	△ 40
為替影響	+5	連結子会社・持分法	△ 5
在庫評価影響※	+25		
合計	+45	合計	△ 45

※在庫評価影響には総平均計算による影響および低価法影響を含む。

2018年度業績見通し（セグメント別）

溶接

- 自然災害に起因した操業コスト増や、原材料のコストアップなどにより前回想定に比べ減益を見込む。

(億円)

	17年度 ①	18年度			上→下増減 ③-②	年度増減 ④-①	18年度 前回公表(8/1)	
		上期②	下期見通し③	年度見通し④			年度⑤	増減④-⑤
売上高	805	398	422	820	+24	+15	820	-
経常損益	49	9	21	30	+12	△ 19	40	△ 10

アルミ・銅

- アルミ圧延品販売数量の減少に加え、原油市況の上昇に伴うエネルギーコストの悪化や、お客様への補償費用の増加などから、前回想定に比べ減収減益を見込む。

(億円)

	17年度 ①	18年度			上→下 増減 ③-②	年度増減 ④-①	18年度 前回公表(8/1)	
		上期②	下期見通し③	年度見通し④			年度⑤	増減④-⑤
売上高	3,495	1,813	1,937	3,750	+124	+255	3,850	△ 100
経常損益 (内 在庫評価影響)	118 (60)	16 (20)	△ 36 (0)	△ 20 (20)	△ 52 (△ 20)	△ 138 (△ 40)	20 (25)	△ 40 (△ 5)

	17年度 ①	18年度			上→下 増減 ③-②	年度増減 ④-①	18年度 前回公表(8/1)	
		上期②	下期見通し③	年度見通し④			年度⑤	増減④-⑤
アルミ圧延品販売量	363千t	178千t	170千t程度	350千t程度	△ 8千t程度	△ 13千t程度	365千t程度	△ 15千t程度
銅板条販売量	60千t	29千t	30千t程度	60千t程度	+1千t程度	-	60千t程度	-
銅管販売量	82千t	43千t	40千t程度	85千t程度	△ 3千t程度	+3千t程度	85千t程度	-

2018年度業績見通し（セグメント別）

機械

- ・ 圧縮機において、需要は回復基調にはあるもののエネルギー関連投資が復調せず、競合他社との競争激化による採算悪化、サービス案件の受注額減少、足元の資機材価格上昇によるコストアップなどにより前回想定に比べ減収減益を見込む。

(億円)

	17年度 ①	18年度			上→下増減 ③-②	年度増減 ④-①	18年度 前回公表(8/1)	
		上期②	下期見通し③	年度見通し④			年度⑤	増減④-⑤
売上高	1,613	842	968	1,810	+126	+197	1,840	△ 30
経常損益	23	8	17	25	+9	+2	55	△ 30
受注高	1,511	725	920程度	1,650程度	+190程度	+140程度	1,650程度	-

エンジニアリング

- ・ 既受注案件の順調な進捗により、経常損益は前回想定に比べ若干の増益を見込む。

(億円)

	17年度 ①	18年度			上→下増減 ③-②	年度増減 ④-①	18年度 前回公表(8/1)	
		上期②	下期見通し③	年度見通し④			年度⑤	増減④-⑤
売上高	1,228	554	956	1,510	+402	+282	1,500	+10
経常損益	69	10	40	50	+30	△ 19	45	+5
受注高	1,192	722	530程度	1,250程度	△ 190程度	+60程度	1,200程度	+50程度

2018年度業績見通し（セグメント別）

建設機械

- クレーンの倒壊事故による販売台数の減少や事故機の廃却損などを織り込む一方、中国の油圧ショベル事業において引当金の取り崩しの益を見込んだことなどもあり、前回見通し据え置きの240億円を見込む。

(億円)

	17年度 ①	18年度			上→下増減 ③-②	年度増減 ④-①	18年度 前回公表(8/1)	
		上期②	下期見通し③	年度見通し④			年度⑤	増減④-⑤
売上高	3,645	2,049	2,001	4,050	△ 48	+405	4,100	△ 50
経常損益	219	135	105	240	△ 30	+21	240	-

電力

- 神戸発電所では、安定操業の継続により、引き続き安定的な電力供給を行っていく。
- 経常損益については前回想定を据え置く。

(億円)

	17年度 ①	18年度			上→下増減 ③-②	年度増減 ④-①	18年度 前回公表(8/1)	
		上期②	下期見通し③	年度見通し④			年度⑤	増減④-⑤
売上高	721	358	402	760	+44	+39	710	+50
経常損益	79	△ 36	16	△ 20	+52	△ 99	△ 20	-

【フリーキャッシュフローおよび設備投資の状況】

＜フリーキャッシュフロー＞

(億円)

	17年度	18年度 見通し	前年比増減	18年度 前回公表(8/1)	
	①	②		②-①	年度③
営業キャッシュフロー	1,918	400	△ 1,518	600	△ 200
投資キャッシュフロー	△ 1,607	△ 700	+907	△ 750	+50
プロジェクトファイナンス除く フリーキャッシュフロー	311	△ 300	△ 611	△ 150	△ 150
プロジェクトファイナンス含む フリーキャッシュフロー	292	△ 400	△ 692	△ 300	△ 100
プロジェクトファイナンス除く 現預金残高	1,582	1,000	△ 582	950	+50

＜設備投資の状況＞

(億円)

	17年度	18年度 見通し	差異	18年度 前回公表(8/1)	
	①	②		②-①	年度③
設備投資計上額	1,286	1,500	+214	1,450	+50
設備投資支払額	1,366	1,500	+134	1,550	△ 50
減価償却費	1,020	1,000	△ 20	1,000	-

	2016年度 実績	2017年度 実績	2018年度 見通し
ROS ※1	△1.1%	3.8%	1.2%
1株あたり当期純損益	△63.54円	174.43円	96.60円
有利子負債 ※2	7,896億円	7,260億円	6,800億円
D/Eレシオ ※3	※4 1.17倍	0.98倍	0.9倍程度
ROA ※5	△0.8%	3.1%	1.1%
ROE ※6	△3.4%	8.9%	4.7%

※1：売上高経常利益率

※2：有利子負債は、IPPプロジェクトファイナンスを含まない

※3：D/Eレシオ＝有利子負債（IPPプロジェクトファイナンス含まない）／自己資本

※4：2017年度分借入金の前倒し調達（1,176億円）含む
前倒し調達除く2016年度D/Eレシオ：1.00倍

※5：経常損益/総資産

※6：親会社株主に帰属する当期純損益/自己資本

	17年度 実績						
	1Q	2Q	上期	17年度		下期	年度
				3Q	4Q		
粗鋼生産量 (万t)	194	200	394	180	172	352	746
鋼材販売量 (万t)	152	152	304	153	140	293	597
鋼材販売単価 (千円/t)	80.8	82.2	81.5	81.5	81.5	81.5	81.5
鋼材輸出比率 (金額ベース)	27.1%	25.7%	26.4%	29.3%	26.6%	28.0%	27.2%

	18年度 見通し				
	1Q	2Q	上期	18年度	
				下期	年度
粗鋼生産量 (万t)	172	166	339	345程度	685程度
鋼材販売量 (万t)	139	132	271	295程度	565程度
鋼材販売単価 (千円/t)	83.5	87.0	85.2		
鋼材輸出比率 (金額ベース)	25.9%	25.5%	25.7%	26%程度	26%程度

○18年度上期 △17億円 → 18年度下期見通し 47億円 +64億円

(億円)

増益要因		減益要因	
生産・出荷	+105	原料価格	△ 10
総コスト削減	+5	為替影響	△ 10
在庫評価影響※	+20	連結子会社・持分法	△ 5
		その他	△ 41
合計	+130	合計	△ 66

※在庫評価影響には総平均計算による影響および低価法影響を含む。

○17年度 173億円 → 18年度見通し 30億円 △143億円

(億円)

増益要因		減益要因	
生産・出荷	+95	原料価格	△ 135
総コスト削減	+50	在庫評価影響※	△ 60
為替影響	+5	連結子会社・持分法	△ 10
		その他	△ 88
合計	+150	合計	△ 293

※在庫評価影響には総平均計算による影響および低価法影響を含む。